

貯法	密封容器	承認指令書番号	農林水産省指令 17 消安第 2512 号
		販売開始	1990 年 10 月

使用前に必ず本書を読み、内容を理解したうえで使用してください。
また、本書を必要なときに参照できるように大切に保管してください。

動物用医薬品

カルシウム注射剤

カルマデックス[®]注

Carmadex[®] INJ.

本剤はカルシウム、リン、マグネシウムを有効成分とする注射剤です。

乳熱、産前・産後起立不能症等は分娩時のカルシウムの出納のアンバランスによる低カルシウムにより生じることが知られています。実際低カルシウム血症であるばかりでなく、多くは低リンであることも解っています。この低リン症状は、カルシウム剤の注射によりカルシウム濃度が正常になるとともに回復することが多いのですが、なかなか正常に戻らないものも多いのです。これらの牛には低マグネシウム血症の併発も考えられるのでカルシウム、リン、マグネシウムを補給する必要があります。

本剤 100 mL 中には、カルシウム約 2.4 g、リン約 0.3 g、マグネシウム約 0.24 g が含まれており、一般的なボログルコン酸カルシウム 25 % 注射液中のカルシウム含有量約 2.0 g より、カルシウム含量の多い処方になっています。

【成分及び分量】

本剤 1 mL 中

ボログルコン酸カルシウム	250 mg
グリセロリン酸カルシウム	20 mg
塩化マグネシウム	20 mg

【効能又は効果】

牛：低カルシウム血症、低マグネシウム血症、乳熱、産前・産後起立不能症

【用法及び用量】

1 頭当たり下記の量を 1 回量とし静脈内に注射する。

牛：200 ～ 500 mL

休業期間

本剤投与後、下記の期間は食用に供する目的で出荷等を行わないこと。

牛：3 日間

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は獣医師の指導の下で使用すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- ・本剤投与後、下記の期間は食用に供する目的で出荷等を行わないこと。
牛：3 日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・本剤の外観又は内容物に異常が認められた場合は使用しないこと。
- ・本剤は他の薬剤と混合して使用しないこと。
- ・開封後は速やかに使用すること。
- ・本剤は有効期間を設定してある動物用医薬品なので使用期限を過ぎた製品は使用しないこと。
- ・プラスチック容器は、液漏れの原因になるので鋭利なもの等で傷つけないこと。

- ・プラスチック容器に注射針を刺すときは、ゴム栓の刻印部にまっすぐに刺通すこと。斜めに刺すと、側壁を刺通し液漏れの原因になることがあるので注意すること。
- ・プラスチック容器に穴が開いていたり、液漏れが認められた場合は使用しないこと。
- ・注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- ・注射針は必ず1頭ごとに取りかえること。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・本剤が誤って眼、鼻、口等に入ったときは、直ちに水で洗浄やうがい等を行い医師の診察を受けること。

(牛に関する注意)

- ・本剤は必ず静脈内に使用し、注射時に注射針が血管内に確実に入っていることを確認し、ゆるやかに投与すること。
- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(取扱い上の注意)

- ・寒冷時に大量に静脈内投与する場合には、本剤を体温程度に暖めること。

(専門的事項)

① 重要な基本的注意

- ・本剤の投与量は血清カルシウム量、血清マグネシウム量を調べてから決定することが望ましい。
- ・高用量の静脈内投与では、心機能に注意し、異常が認められた場合、一時投与を中止し、正常に戻ってから再投与すること。

【有効期間】

36 カ月

【包装】

250 mL × 20 本 (プラスチックボトル)
500 mL × 20 本 (プラスチックボトル)

【製品情報お問い合わせ先】

フジタ製薬株式会社
〒193-0942 東京都八王子市栢田町1211
電話 (042) 661-5528 (代)

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要であると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

製造販売元



フジタ製薬株式会社

東京都品川区上大崎2丁目13番2号
<http://www.fujita-pharm.co.jp>

FUJITA PHARM